

平成28年度文部科学省「専修学校版デュアル教育推進事業  
(医療事務における効果的な連携事業を行うためのガイドライン作成)」

第3回事業推進委員会議事録

1. 日時 平成29年1月17日(火) 14:00~16:00
2. 場所 東京ガーデンパレス
3. 出席者 岡村 慎一 YIC ビジネスアート専門学校  
増子 卓矢 郡山情報ビジネス公務員専門学校  
岩田 和人 中央情報経理専門学校  
高岡 信吾 専門学校岡山情報ビジネス学院  
上野 慎輔 麻生医療福祉専門学校  
森合 恵子 郡山情報ビジネス公務員専門学校  
佐藤 昭宏 ベネッセ教育総合研究所  
猪俣 昇 株式会社ウィネット  
中西美和子 YIC キャリアデザイン専門学校  
石飛 隆敏 社会医療法人 製鉄記念八幡病院  
石田 哲也 富山情報ビジネス専門学校  
渡辺 元三 社会福祉法人聖母会 聖母病院  
富田伸一郎 株式会社ウチダ人材開発センター  
飯塚 正成 有限会社ザ・ライスマウンド  
長面川さより 株式会社ウォームハーツ  
永井 真介 富山情報ビジネス専門学校
4. 議事 ①調査報告(学校)
  - ・39校中35校43学科回答 回答率89.7%
  - ・ミスタッチ(誤字脱字)が多かった。
  - ・数値とコメントの因果関係を分析していく。
  - ・3月14日までに文科省提出予定。
  - ・各学校で使用している実習関連書類データが提出された(300枚ほど)
  - ・実施状況⇒1年次実施が63.8%
  - ・1回、2回の考え方に相違があった。  
(1回目に実施できなかった学生に対して2回目を設置している。など)
  - ・期間⇒1~2週間が全体の40%である。長期は少ない。
  - ・「協働しながら学ぶ学習」7回答あったが、実際は補助業務に近いのでは。
  - ・テキストデータを、テキストマイニングで分析し、次回委員会にて提出。

- ・実習受入医療機関の規模が各学校で明らかに違う。
- ・それぞれの学校エリアでの付き合いが反映されているのではないか。
- ・学生の希望を聞き、教員が過去の実績を踏まえて学生指導をしている。
- ・病院からの実習内容提示はほとんどなし。
- ・事前学習の考え方に相違があり、SQ2-3-1 はカリキュラムの回答になってしまった。
- ・事前学習でロールプレイングを取り入れている学校がいくつかある。

⇒ロールプレイングは評価しづらい手法である為、評価方法を調査していく。

- ・学生が使用する実習中の確認資料は実習ノートがほとんどである。
- ・学生の実習状況把握に関しては、実習日誌が 78%
- ・実習報告会は多く行われているが、報告後のディスカッションがあれば尚良い。
- ・実習報告後の病院へのフィードバックはほとんどされていない。
- ・検定主体のカリキュラムの為、実習科目を新たに追加していくことは難しい。
- ・実習指導教員の為の研修は行われていない。今後検討していく。

## ②調査報告（病院）各視察担当から所感報告

- ・受入側の考えと学校の考えを改めて考える良い機会となった。
- ・受入側が「コミュニケーションさえできていれば」という考えではガイドラインの意味がなくなるのではないか。
- ・ガイドラインの位置づけを深く考えていく必要がある。
- ・実習内容を依頼（紙）したが、実際は違っていた。
- ・検定用の教育になっているカリキュラムを見直す必要がある。
- ・病院側としては、事前に実習希望を伺い準備していきたい。
- ・実習に来たことによる学生の学習成果を教えてほしい。
- ・病床の規模によってガイドラインを分けるのも良い。
- ・実習先から担当部署を明確にしてもらい、事前学習を充実させる。
- ・実習受入病院の規模によって実習内容が違う（人員不足などの理由から）
- ・病院側としては事前学習をあまり期待していない。
- ・病院側に学校の教育状況を理解してもらっていない。
- ・学校側はどこまでの出来上がりを求めているのか明確にするべき。
- ・事前学習で、病院の方をお呼びし、講義していただくのも良いのでは。

## ③今後の予定

- ・2017/1/30 分科会
- ・2017/2/3 実施委員会 13:00～14:00 ※中間報告の事前確認  
中間報告会 14:30～16:00
- ・中間報告までに 2 回程度委員会追加予定（2月中旬～3月上旬）